

GIS データファイル作成要領

1. 目的

自動車騒音常時監視結果に関する騒音測定地点の状況、環境基準達成度の評価区間を個別・具体的に把握するとともに電子データで保存し、GIS を使用したインターネット経由の情報提供及び今後の環境施策の企画等に使用するものです。

2. 資料 2 の構成

- 本資料は、自動車騒音の常時監視結果について、騒音測定地点及び評価対象道路・評価区間を示す位置図を GIS データファイルとして作成するにあたって、作成方法、注意点等を示したものです。

3. 提出方法及び対象範囲

(1) 提出対象

提出対象は、令和 5 年度に実施した自動車騒音常時監視結果について、

- 様式 1-1 により報告する評価区間の全て
(なお、「評価の実施年度」が当該年度 (2023 年度) の評価区間のみでも可)
 - 様式 2-1 により報告する騒音測定地点の全て
(なお、「測定年度」が当該年度 (2023 年度) の騒音測定地点のみでも可)
- です。

(2) 提出物

提出物は、次のとおりです。

- 下表に示すファイルの種類のうちいずれか 1 つで、本要領に基づいて作成された、GIS データを収めた電子ファイル一式

表 取扱いファイルの種類及び形式

ファイルの種類		形式 (拡張子)	摘要
1	MapInfo Interchange Format (MID/MIF 形式)	*.mif, *.mid	(株) アルプス社
2	ArcView Shape	*.shp, *.shx, *.dbf	ESRI ジャパン (株)
3	G-XML 2.0	*.xml	(JIS X 7199)

(3) 取り扱い座標系について

座標系 : 「世界測地系 (ITRF94 系/GRS1980)」または「日本測地系 2000 (JGD2000)」

出力座標数値 : 緯度、及び経度 (十進緯経度 : 度 + (分/60) + (秒/3600))

有効桁数 : 小数点第 6 位まで

(4) 注意事項

本要領に基づいて作成された GIS データを提出する地方公共団体は、資料 4 で示す位置図 (騒音測定地点、評価区間) は任意提出です。ただし、資料 4 に示す詳細図については、全ての地方公共団体が提出必要ですので、ご注意下さい。

GIS データの提出にあたって、評価区間 Polygon (REGION) の出力形式が”出力コード : なし”のデータについては、巻末に添付された、面的評価支援システム操作マニュアル (本編) 抜粋を参照し、GIS データの読込・確認による検証後に提出下さい。

目 次

1. MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマット	2
(1) ファイル構成	2
(2) 騒音測定地点情報	4
(3) 評価区間情報	5
(4) サンプル	9
2. ArcView Shape フォーマット	11
(1) ファイル構成	11
(2) 騒音測定地点情報	12
(3) 評価区間情報	13
(4) サンプル	14
3. G-XML 2.0 フォーマット	15
(1) ファイル構成	15
(2) 騒音測定地点情報	16
(3) 評価区間情報	17
(4) サンプル	21
参考資料 1	24
評価区間 Polygon (REGION) の出力形式	24
参考資料 2	27
面的評価支援システム 操作マニュアル (本編) 抜粋	27

1. MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式) フォーマット

MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマットで出力する際には、図形ファイル(*.mif)に各オブジェクト(騒音測定地点・評価区間)の図形情報、および属性データの列情報を出し、属性データファイル(*.mid)に各属性情報の詳細(「表1-4 騒音測定地点属性情報の詳細」および「表1-6 評価区間属性情報の詳細」を参照)を出力してください。

(1) ファイル構成

次表に、MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマットのファイル構成をまとめます。

表1-1 MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマットのファイル構成

データ種類	ファイル名(*1)	ファイル内容	備考
騒音測定地点	souonYYYYPPQQQ.mif	図形情報ファイル	騒音測定地点は POINT 属性で作成
	souonYYYYPPQQQ.mid	属性データファイル	詳細については、「表1-4 騒音測定地点属性情報の詳細」を参照
評価区間	hyokaPPQQQ.mif(*2)	図形情報ファイル	評価区間は REGION (Polygon) 属性で作成 例外として Line 属性でも可
	hyokaPPQQQ.mid(*2)	属性データファイル	詳細については、「表1-6 評価区間属性情報の詳細」を参照

(*1) ファイルは、都道府県もしくは市区町村単位とする。

YYYY:騒音測定データ年度(西暦) PP:都道府県コード(01-47) QQQ:市区町村コード

都道府県でファイルを作成する場合は、市区町村コードに“000”をセットする。

(*2) 評価区間として出力できない場合は、ファイル名の先頭出力コードを指定してください。詳細については、参考資料1を参照してください。

以下に、図形情報ファイル(*.mif)・属性データファイルの内容について説明します。

a 図形情報ファイル(*.mif) ファイルフォーマット

図形情報ファイル(*.mif) ファイルは、以下のフォーマットで構成されています。

[フォーマット]

Version バージョン番号

Charset "文字セット"

Delimiter "デリミタ文字"

CoordSys 座標系指定

Columns 列数

列名 型

: (属性データファイルに定義する列の数だけ定義)

Data

オブジェクト情報

: (各オブジェクトの座標情報等を定義)

次表に各項目の説明をまとめます。

表 1－2 図形情報ファイル (*.mif) ファイル
の各項目説明

項目	内容	備考
バージョン番号	MID/MIF ファイルのバージョンを指定します。	300 として下さい。
文字セット	テーブル中の文字セットを指定します。	“WindowsJapanese”として下さい。
デリミタ文字	テーブル中の項目のデリミタ（区切り文字）を指定します。	”,”（カンマ）として下さい。
座標系指定	格納されている座標の座標系情報を指定します。	「世界測地系（ITRF94 系/GRS1980）」または「日本測地系 2000(JGD2000)」になる様に指定して下さい。
列数	テーブルに保存するデータの列数を指定します。	表 1－4 または表 1－6 の通番の最終番号を指定
列名	テーブルに保存するデータの列名を指定します。	表 1－4 または表 1－6 の列名を通番の順で指定
型	テーブルに保存するデータの各列の型を指定します。	整数：Integer 文字列：Char(文字数)
オブジェクト情報	各オブジェクトの座標データ等を指定します。	騒音測定地点または評価区間（上下別）のオブジェクト座標等

b 属性データファイル (*.mid) ファイルフォーマット

属性データファイル (*.mid) ファイルは、以下のフォーマットで構成されています。

[フォーマット]

1 件目の 1 列目データ, 1 件目の 2 列目データ,・・・1 件目の N 列目データ
2 件目の 2 列目データ, 2 件目の 2 列目データ,・・・2 件目の N 列目データ
:
M 件目の 1 列目データ, M 件目の 2 列目データ,・・・M 件目の N 列目データ

オブジェクトの数
だけ出力

*.mif で定義した列に対応するデータを出力

(2) 騒音測定地点情報

騒音測定年度毎に騒音測定地点座標（緯度・経度）と騒音測定地点情報を出力します。

（騒音測定年度毎にファイルを分けて出力します。ファイル名については、「表 1－1 MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマットのファイル構成」のファイル名の欄を参照してください。）

a 騒音測定地点座標

測定地点毎に測定地点の座標を POINT で図形情報ファイル (*.mif) に出力します。

[POINT フォーマット]

Point△経度△緯度

△△△△Symbol(形,色,サイズ)

△：半角スペース

次表に各項目の説明をまとめます。

表 1－3 POINT フォーマットの各項目説明

項目	内容	備考
経度	POINT の経度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。
緯度	POINT の緯度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。
形	ポイントの形状を指定します。	○(値：40) として下さい。
色	ポイントの色を指定します。	赤(値：16711680)として下さい。
サイズ	ポイントのサイズを指定します。	12 として下さい。

[出力例]

Point 139.95443 43.72074

Symbol (40,16711680,12)

b 騒音測定地点情報

騒音測定地点属性情報の列情報を図形ファイル (*.mif) の Columns 部に定義し、測定地点毎に騒音測定地点の情報を属性データファイル (*.mid) に出力します。

出力内容は次表（「表 1－4 騒音測定地点情報の詳細」）に定義してある項目のみとします。

[注意] 騒音測定地点情報は騒音測定地点座標を出力した順番 (*.mif ファイルに出力した順) に出力して下さい。

また、騒音測定地点座標 (POINT) の件数と騒音測定地点情報の件数は同じにして下さい。

[Columns 部の定義内容 (*.mif ファイル内)]

Columns 4
 Nendo Integer
 PrefCd Integer
 CityCd Integer
 SokuteiCd Char(9)
 Data

[属性データフォーマット (*.mid ファイル内)]

測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号 ・・・測定地点 1 のデータ
 測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号 ・・・測定地点 2 のデータ
 :
 測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号 ・・・測定地点 N のデータ

次表に、各出力項目の詳細をまとめます。

表 1－4 騒音測定地点属性情報の詳細

通番	項目	列名(*3)	型(*3)	文字数(*3)	内容
1	測定年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の測定のあった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコードで、都道府県コードに該当する上 2 桁を除いたもの。
4	騒音測定地点番号	SokuteiCd	文字列(*5)	9	騒音測定を行った地点毎に、一連番号を表す数字。

(*3) .mif ファイル内の Columns 部に列名・型・文字数を定義し、指定した型・文字数でデータを.mid ファイルに出力する。

(*4) Integer で宣言する。

(*5) Char で宣言する。

(3) 評価区間情報

評価区間（上下別）座標（緯度・経度）と評価区間（上下別）情報を出力します。

（評価区間が 10 ある場合は、10（評価区間）×2（上下別）＝20 件）

a 評価区間（上下別）座標

評価区間（上下別）毎に評価区間の座標を REGION (Polygon) で図形情報ファイル (*.mif) に出力します。

[REGION フォーマット]

Region△ポリゴン数

△△座標点数

経度△緯度

経度△緯度

:

経度△緯度

座標点数の数だけ座標を出力

△△△△Pen(線幅,線パターン,線色)

△△△△Brush(ブラシパターン,前景色,背景色)

△△△△Center△中心経度△中心緯度

△: 半角スペース

次表に各項目の説明をまとめます。

表 1-5 REGION フォーマットの各項目説明

項目	内容	備考
ポリゴン数	ポリゴンの数を指定します。	1として下さい。
座標点数	ポリゴンの座標点数を指定します。	
経度	ポリゴンの経度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。
緯度	ポリゴンの緯度座標を指定します。	座標点数分出力します。
線幅	ポリゴンの線幅を指定します。	1として下さい。
線パターン	ポリゴン枠線の線パターンを指定します。	実線(2)として下さい。
線色	ポリゴン枠線の色を指定します。	赤(16711680)として下さい。
ブラシパターン	ポリゴンの塗潰しパターンを指定します。	塗潰しなし(1)として下さい。
前景色	ポリゴン面の前景色を指定します。	
背景色	ポリゴン面の背景色を指定します。	
中心経度	ポリゴンの中心経度を指定します。	
中心緯度	ポリゴンの中心緯度を指定します。	

[出力例]

Region 1

9

139.986703 43.874344

140.082958 43.932364

140.484719 43.636152

140.827889 43.452927

141.099915 43.382691

141.058065 43.318562

140.806965 43.385744

140.430313 43.581184

139.986703 43.874344

Pen (1,2,0)

Brush (1,0,0)

Center 140.434023 43.625463

b 評価区間（上下別）情報

評価区間属性情報の列情報を図形ファイル (*.mif) の Columns 部に定義し、評価区間（上下別）毎に評価区間（上下別）の情報を属性データファイル (*.mid) に出力します。

出力内容は次表（「表 1－6 評価区間属性情報の詳細」）に定義してある項目のみとします。

〔注意〕 評価区間（上下別）情報は評価区間（上下別）座標を出力した順番 (*.mif ファイルに出力した順) に出力して下さい。

また、評価区間（上下別）座標 (REGION) の件数と評価区間（上下別）情報の件数は同じにして下さい。

〔Columns 部の定義内容 (*.mif ファイル内)〕

Columns 7

Nendo Integer

PefCd Integer

CityCd Integer

HyokaCd Char(15)

JyogeCd Integer

HasseiCd Integer

SokuteiNen Integer

Data

〔属性データフォーマット (*.mid ファイル内) 〕

評価年度,都道府県コード,市区町村コード,評価区間番号,上下区分コード,	騒音発生強度の把握の方法, 測定年度
	・・・評価区間 1 の上区分のデータ
評価年度,都道府県コード,市区町村コード,評価区間番号,上下区分コード,	騒音発生強度の把握の方法, 測定年度
	・・・評価区間 1 の下区分のデータ
評価年度,都道府県コード,市区町村コード,評価区間番号,上下区分コード,	騒音発生強度の把握の方法, 測定年度
	・・・評価区間 2 の上区分のデータ
評価年度,都道府県コード,市区町村コード,評価区間番号,上下区分コード,	騒音発生強度の把握の方法, 測定年度
	・・・評価区間 2 の下区分のデータ
:	
評価年度,都道府県コード,市区町村コード,評価区間番号,上下区分コード,	騒音発生強度の把握の方法, 測定年度
	・・・評価区間 N の下区分のデータ

次表に、各出力項目の詳細をまとめます。

表 1－6 評価区間属性情報の詳細

通 番	項 目	列名(*3)	型(*3)	文字 数(*3)	内 容
1	評価年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の評価のあった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコードで、都道府県コードに該当する上 2 桁を除いたもの。
4	評価区間番号	HyokaCd	文 字 列 (*5)	15	各地方公共団体別に、評価区間を一意に表す評価区間番号。ハイフン（－）等の記号等を併用している場合があるので文字列で表すが、数字は全角を用いないこと。
5	上下区分コード	JyogeCd	整数(*4)	1	評価区間の上下を表す数字 0：上、1：下、9：区分なし
6	騒音発生強度の把握の方法	HasseiCd	整数(*4)	1	騒音発生強度の把握の方法を表すコード 1：沿道騒音レベルの実測による方法 2：他の評価区間における騒音測定結果を準用する方法 3：自動車の交通量及び速度の実測結果により推計する方法 4：交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法
7	測定年度	SokuteiNen	整数(*4)	4	騒音測定の年度を西暦で表す数字

(*3) .mif ファイル内の Columns 部に列名・型・文字数を定義し、指定した型・文字数でデータを.mid ファイルに出力する。

(*4) Integer で宣言する。

(*5) Char で宣言する。

(4) サンプル

県コード (9 9)、市区町村コード (8 8 8) の 2003 年度報告の場合
(騒音測定地点)

- ・ **souon200399888.mif** ファイル内容

```
Version 300
Charset "WindowsJapanese"
Delimiter ","
CoordSys Earth Projection 1, 33
Columns 4
  Nendo Integer
  PrefCd Integer
  CityCd Integer
  SokuteiCd Char(9)
Data
```

```
Point 139.95443 43.72074
  Symbol (40,16711680,12)
Point 140.750419 43.393846
  Symbol (40,16711680,12)
Point 140.106428 43.081544
  Symbol (40,16711680,12)
Point 141.774405 42.874316
  Symbol (40,16711680,12)
```

- ・ **souon2003PPQQQ.mid** ファイル内容

```
2003,99,888,"1"
2003,99,888,"2"
2003,99,888,"3"
2003,99,888,"4"
```

(評価区間)

- ・ **hyoka99888.mif** ファイル内容

```
Version 300
Charset "WindowsJapanese"
Delimiter ","
CoordSys Earth Projection 1, 33
Columns 7
  Nendo Integer
  PefCd Integer
  CityCd Integer
  HyokaCd Char(15)
  JyogeCd Integer
  HasseiCd Integer
  SokuteiNen Integer
Data
```

```
Region 1
  9
139.986703 43.874344
140.082958 43.932364
140.484719 43.636152
140.827889 43.452927
```

141.099915 43.382691
 141.058065 43.318562
 140.806965 43.385744
 140.430313 43.581184
 139.986703 43.874344
 Pen (1,2,16711680)
 Brush (1,0,0)
 Center 140.434023 43.625463
 Region 1
 9
 140.154103 42.970435
 140.568419 43.123122
 140.924145 43.239165
 141.032955 43.269702
 141.074805 43.230003
 140.748375 43.123122
 140.421943 43.010134
 140.187583 42.924629
 140.154103 42.970435
 Pen (1,2,16711680)
 Brush (1,0,0)
 Center 140.614454 43.097165
 Region 1
 9
 140.103883 43.94458
 140.501459 43.654474
 140.832075 43.474303
 141.112471 43.404067
 141.150135 43.449873
 140.873925 43.526216
 140.585159 43.685012
 140.166658 43.981224
 140.103883 43.94458
 Pen (1,2,16711680)
 Brush (1,0,0)
 Center 140.51176 43.692645
 Region 1
 5
 141.074805 43.214735
 140.200138 42.912414
 140.250358 42.863554
 141.116655 43.168929
 141.074805 43.214735
 Pen (1,2,16711680)
 Brush (1,0,0)
 Center 140.658396 43.039144

- **hyoka99888.mid** ファイル内容
 2003,99,888,"11111-11",0,1,2003
 2003,99,888,"22222-22",0,2,0
 2003,99,888,"11111-11",1,1,2003
 2003,99,888,"22222-22",1,2,0

2. ArcView Shape フォーマット

ArcView Shape フォーマットで出力する際には、メインファイル (*.shp) に各オブジェクト（騒音測定地点・評価区間）の図形情報を出力し、属性データファイル (*.dbf) に各属性情報の詳細（「表 2－2 騒音測定地点属性情報の詳細」 および「表 2－3 評価区間属性情報の詳細」を参照）を出力して下さい。

(1) ファイル構成

次表に、ArcView Shape フォーマットのファイル構成をまとめます。

表 2－1 ArcView Shape フォーマットのファイル構成

データ種類	ファイル名(*1)	ファイル内容	備考
騒音測定地点	souonYYYYPPQQQ.shp	メインファイル	騒音測定地点は Point 属性で作成
	souonYYYYPPQQQ.shx	インデックスファイル	
	souonYYYYPPQQQ.dbf	属性ファイル	詳細については、「表 2－2 騒音測定地点属性情報の詳細」を参照
評価区間	hyokaPPQQQ.shp(*2)	メインファイル	評価区間は Polygon 属性で作成 例外として Line 属性でも可
	hyokaPPQQQ.shx(*2)	インデックスファイル	
	hyokaPPQQQ.dbf(*2)	属性ファイル	詳細については、「表 2－3 評価区間属性情報の詳細」を参照

(*1) ファイルは、都道府県もしくは市区町村単位とする。

YYYY:騒音測定データ年度（西暦） PP:都道府県コード（01-47） QQQ:市区町村コード

都道府県でファイルを作成する場合は、市区町村コードに“000”をセットする。

(*2) 評価区間として出力できない場合は、ファイル名の先頭に出力コードを指定してください。 詳細については、参考資料 1 を参照してください。

a メインファイル (*.shp)

各図形の座標データを格納したファイルです。

本ファイルに騒音測定地点、または評価区間（上下別）の座標が出力されます。

b インデックスファイル (*.shx)

各図形の座標データのメインファイル上での位置とそのデータの大きさを格納したファイルです。

c 属性ファイル (*.dbf)

各図形のもつ属性を表形式で格納したファイルです。

本ファイルに騒音測定地点、または評価区間（上下別）の各属性情報が出力されます。

(2) 騒音測定地点情報

騒音測定年度毎に、測定地点の座標（ポイント）をメインファイル（*.shp）に出力し、騒音測定地点属性情報を属性ファイル（*.dbf）ファイルに出力します。

（騒音測定年度毎にファイルを分けて出力します。ファイル名については、「表 2－1 ArcView Shape フォーマットのファイル構成」のファイル名の欄を参照してください。）

a 騒音測定属性情報

騒音測定地点属性情報には以下の形式で属性ファイル（*.dbf）に出力して下さい。

出力内容は次表（「表 2－2 騒音測定地点属性情報の詳細」）に定義してある項目のみとします。

【出力内容】（dbf ファイルを CSV 形式でみたときのイメージです）

```
Nendo,Prefcd,Citycd,Sokuteicd         ・・・ヘッダー行
測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号   ・・・測定地点 1 のデータ
測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号   ・・・測定地点 2 のデータ
：
測定年度,都道府県コード,市区町村コード,騒音測定地点番号   ・・・測定地点 N のデータ
```

次表に、騒音測定地点属性情報の詳細をまとめます。

表 2－2 騒音測定地点属性情報の詳細

通番	項目	列名(*3)	型(*3)	文字数(*3)	内容
1	測定年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の測定があった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコードで、都道府県コードに該当する上 2 桁を除いたもの。
4	騒音測定地点番号	SokuteiCd	文字列	9	騒音測定を行った地点毎に、一連番号を表す数字。

(*3) *.dbf ファイル内のヘッダー部（1 行目）に列名を定義し、2 行目以降に指定した型・文字数でデータを出力する。

(*4) *.dbf ファイルに出力する際は、文字列型として出力して下さい。（文字数で定義した数の文字列として出力）（例 報告年度が 2003 のときは、"2003"の文字列として下さい）

(3) 評価区間情報

評価区間（上下別）毎に、評価区間の座標（ポリゴン）をメインファイル（*.shp）に出力し、評価区間属性情報を属性ファイル（*.dbf）ファイルに出力します。

（評価区間が10ある場合は、10（評価区間）×2（上下別）＝20件）

b 評価区間属性情報

評価区間属性情報には以下の形式で属性ファイル（*.dbf）に出力して下さい。

出力内容は次表（「表2-3 評価区間属性情報の詳細」）に定義してある項目のみとします。

【フォーマット】（dbf ファイルを CSV 形式でみたときのイメージです）

Nendo, Prefcd, Citycd, Hyokacd, Jyogecd, HasseiCd, SokuteiNen・・・ヘッダー行

評価年度, 都道府県コード, 市区町村コード, 評価区間番号, 上下区分コード, 騒音発生強度の把握の方法,, 測定年度
・・・評価区間1の上区分のデータ

評価年度, 都道府県コード, 市区町村コード, 評価区間番号, 上下区分コード, 騒音発生強度の把握の方法,, 測定年度
・・・評価区間1の下区分のデータ

評価年度, 都道府県コード, 市区町村コード, 評価区間番号, 上下区分コード, 騒音発生強度の把握の方法,, 測定年
・・・評価区間2の上区分のデータ

評価年度, 都道府県コード, 市区町村コード, 評価区間番号, 上下区分コード, 騒音発生強度の把握の方法,, 測定年度
・・・評価区間2の下区分のデータ

:

評価年度, 都道府県コード, 市区町村コード, 評価区間番号, 上下区分コード, 騒音発生強度の把握の方法,, 測定年度
・・・評価区間Nの下区分のデータ

次表に、評価区間属性情報の詳細をまとめます。

表2-3 評価区間属性情報の詳細

通番	項目	列名(*3)	型(*3)	文字数(*3)	内容
1	評価年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の評価のあった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省）」に準じるコードで、都道府県コードに該当する上2桁を除いたもの。
4	評価区間番号	HyokaCd	文字列	15	各地方公共団体別に、評価区間を一意に表す評価区間番号。ハイフン（-）等の記号等を併用している場合があるので文字列で表すが、数字は全角を用いないこと。
5	上下区分コード	JyogeCd	整数(*4)	1	評価区間の上下を表す数字 0：上、1：下、9：区分なし
6	騒音発生強度の把握の方法,	HasseiCd	整数(*4)	1	騒音発生強度の把握の方法を表すコード 1：沿道騒音レベルの実測による方法 2：他の評価区間における騒音測定結果を準用する方法 3：自動車の交通量及び速度の実測結果により推計する方法 4：交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法
7	測定年度	SokuteiNen	整数(*4)	4	騒音測定の年度を西暦で表す数字

- (*3) *.dbf ファイル内のヘッダー部（1行目）に列名を定義し、2行目以降に指定した型・文字数でデータを出力する。
- (*4) *.dbf ファイルに出力する際は、文字列型として出力して下さい。（文字数で定義した数の文字列として出力）（例 評価年度が 2003 のときは、"2003"の文字列として下さい）

(4) サンプル

県コード（99）、市区町村コード（888）の 2003 年度報告の場合
（騒音測定地点）

・ souon200399888.dbf ファイル内容

Nendo, Prefcd, Citycd, Sokuteicd
2003,99,888,1
2003,99,888,2
2003,99,888,3
2003,99,888,5
2003,99,888,4

（評価区間）

・ hyoka99888.dbf ファイル内容

Nendo, Prefcd, Citycd, Hyokacd, Jyogecd, HsseiCd, SokuteiNen
2003,99,888,1004-1,0,1,2003
2003,99,888,1004-1,1,1,2002
2003,99,888,1004-2,0,2,0
2003,99,888,1004-2,1,1,2003

サンプル表示は、*.dbf ファイルを Excel で開き CSV 形式で保存したものを表示しています。
なお、*.shp, *.shx ファイルのサンプル表示については省略しています。

3. G-XML 2.0 フォーマット

G-XML 2.0 フォーマットで出力する際には、図形データおよび属性データを G-XML ファイル (*.xml) のフォーマットに沿って出力し、図形情報および各属性情報の詳細（「表 3－4 騒音測定地点情報の詳細」 および「表 3－6 評価区間属性情報の詳細」を参照）を出力してください。

(1) ファイル構成

次表に、G-XML 2.0 フォーマットのファイル構成をまとめます。

表 3－1 G-XML 2.0 フォーマットのファイル構成

データ種類	ファイル名(*1)	ファイル内容	備考
騒音測定地点	souonYYYYPPQQQ.xml	図形・属性データファイル	騒音測定地点は POINT 属性で作成 詳細については、「表 14 騒音測定地点属性情報の詳細」を参照
評価区間	hyokaPPQQQ.xml (*2)	図形・属性データファイル	評価区間は REGION (Polygon) 属性で作成 例外として Line 属性でも可 詳細については、[表 1 6 評価区間属性情報の詳細]を参照

(*1) ファイルは、都道府県もしくは市区町村単位とする。

YYYY:騒音測定データ年度（西暦） PP:都道府県コード（01-47） QQQ:市区町村コード

都道府県でファイルを作成する場合は、市区町村コードに“000”をセットする。

(*2) 評価区間として出力できない場合は、ファイル名の先頭に出力コードを指定してください。 詳細については、参考資料 1 を参照してください。

以下に、G-XML 2.0 ファイルの内容について説明します。

[フォーマット]

```
<?xml version="ファイルバージョン" encoding="文字コード" ?>
<G-XML>
  <GeometricFeatureid="ID" category=" ">
    <Geometry>
      図形データ情報（各図形の種類及び座標を定義）
    </Geometry>
    <Property propertytypename="属性名">値</Property>
      :（属性の数分定義）
    <Property propertytypename="属性名">値</Property>
  </GeometricFeature>
  :
  <GeometricFeatureid="ID" category=" ">
    <Geometry>
      図形データ情報（各図形の種類及び座標を定義）
    </Geometry>
    <Property propertytypename="属性名">値</Property>
      :（属性の数分定義）
    <Property propertytypename="属性名">値</Property>
  </GeometricFeature>
</G-XML>
```

次表に各項目の説明をまとめます。

表 3－2 図形情報ファイル (*.xml) ファイルの項目説明

項目	内容	備考
ファイルバージョン	XML のファイルバージョンを指定します。	
文字コード	本 XML ファイル中で使用する文字コードを指定します。	“Shift_JIS”として下さい。
ID	図形 1 つずつに付加した図形 ID を指定します。 1 から連番になる様に指定します。	
図形データ情報	図形の属性、および座標データを指定します。	
属性名	前述の図形に付加する属性の列名を指定します。	
値	前述の図形に付加する属性の値を指定します。	

(2) 騒音測定地点情報

騒音測定年度毎に騒音測定地点座標（緯度・経度）と騒音測定地点情報を出力します。

（騒音測定年度毎にファイルを分けて出力します。ファイル名については、「表 3－1 G-XML2.0 フォーマットのファイル構成」のファイル名の欄を参照してください。）

a. 騒音測定地点座標

測定地点ごとに測定地点の座標を Point で<Geometry>部に出力します。

[POINT フォーマット]

```
<Geometry>
  <Point>
    <Coordinates>経度,緯度</Coordinates>
  </Point>
</Geometry>
```

表 3－3 POINT フォーマットの各項目説明

項目	内容	備考
経度	POINT の経度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。
緯度	POINT の緯度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。

[出力例]

```
<Point>
  <Coordinates>136.80284,35.287483</Coordinates>
</Point>
```

b. 騒音測定地点情報

騒音測定地点属性情報を、<Property>部に出力します。

出力内容は次表(「表 3-4 騒音測定地点情報の詳細」)に定義してある項目のみとします。

[Property フォーマット]

```
<Property propertytypename="Nendo">測定年度</Property>
<Property propertytypename="Prefcd">都道府県コード</Property>
<Property propertytypename="Citycd">市区町村コード</Property>
<Property propertytypename="Sokuteicd">騒音測定地点番号</Property>
```

次表に、各出力項目の詳細をまとめます。

表 3-4 騒音測定地点属性情報の詳細

通番	項目	列名(*3)	型(*3)	文字数(*3)	内容
1	測定年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の測定があった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省発行）」 (http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/9-5.htm) に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省発行）」 (http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/9-5.htm) に準じるコードで、都道府県コードに該当する上 2 桁を除いたもの。
4	騒音測定地点番号	SokuteiCd	文字列(*5)	9	騒音測定を行った地点毎に、一連番号を表す数字。

(*3) *.dbf ファイル内のヘッダー部（1 行目）に列名を定義し、2 行目以降に指定した型・文字数でデータを出力する。

(*4) Integer で宣言する。

(*5) Char で宣言する。

(3) 評価区間情報

評価区間（上下別）座標（緯度・経度）と評価区間（上下別）情報を出力します。

(評価区間が 10 ある場合は、10 (評価区間) × 2 (上下別) = 20 件)

a 評価区間（上下別）座標

評価区間（上下別）毎に評価区間の座標を Polygon で<Geometry>部に出力します。

[Polygon フォーマット]

```
<Geometry>
  <Polygon>
    <RenderingRule>
      <LineStyle color=線色 width=線幅 linepattern=線種 >
      <FaceStyle foregroundcolor=前景色 backgroundcolor=背景色
                                                facepattern=塗潰しスタイル />
    </RenderingRule>
```

```

<OuterBoundary>
  <LinearRing>

    <Coordinates>経度,緯度△経度,緯度・・・      ポリゴンの頂点座標を出力
  </Coordinates>
</LinearRing>
</OuterBoundary>
</Polygon>
</Geometry>

```

次表に各項目の説明をまとめます。

表 3－5 Polygon フォーマットの各項目説明

項目	内容	備考
線色	ポリゴン枠の線色を指定します。	
線幅	ポリゴン枠の線幅を指定します。	
線種	ポリゴン枠の線種を指定します。	
前景色	ポリゴン前景色を指定します。	
背景色	ポリゴン背景色を指定します。	
塗潰しスタイル	ポリゴンの塗潰しスタイルを指定します。	
経度	Point の経度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。
緯度	Point の緯度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。

[出力例]

```

<Polygon>
<RenderingRule>
  <LineStyle color="#000000" width="1.0" linepattern="SOLID" />
  <FaceStyle foregroundcolor="#FFFFCC" backgroundcolor="#000000"
    facepattern="HS_SOLID" />
</RenderingRule>
<OuterBoundary>
  <LinearRing>
    <Coordinates>136.83803,35.28774 136.838,35.2877
      136.83734,35.287697 136.8365,35.287685 136.83586,35.287666
      136.83495,35.287544 136.83475,35.28752 136.83441,35.287487
      136.83408,35.287476 136.83253,35.28742 136.83214,35.2874
      136.8314,35.287376 136.83134,35.287388 136.83038,35.287334
      136.83025,35.287365 136.82979,35.287346 136.82895,35.287308
      136.8287,35.28726 136.82845,35.287254 136.82805,35.287247
      136.82735,35.287247 136.82715,35.28726 136.82625,35.287273
      136.82608,35.287277 136.8251,35.2873 136.82492,35.287304
      136.82446,35.28731 136.82419,35.28732 136.82362,35.287327
      136.82317,35.287334 136.82295,35.287342 136.82198,35.28736
      136.81618,35.28793 136.81657,35.287926 136.81676,35.28792
      136.81735,35.287914 136.81772,35.287895 136.81856,35.287884
      136.81885,35.287876 136.81955,35.28786 136.82054,35.287838
      136.82074,35.287834 136.82175,35.28782 136.82199,35.28781
      136.82298,35.287792 136.82318,35.287785 136.82362,35.287777
      136.8242,35.28777 136.82448,35.28776 136.82494,35.287754
      136.82512,35.287754 136.8261,35.287727 136.82626,35.287724
      136.82718,35.28771 136.82738,35.287697 136.82805,35.287697
      136.82843,35.287704 136.82863,35.28771 136.82886,35.287754
      136.82976,35.287796 136.83034,35.287823 136.83046,35.287792
    </Coordinates>
  </LinearRing>
</OuterBoundary>
</Polygon>

```

```
136.8314,35.28784 136.83147,35.28783
136.8321,35.287846
136.8325,35.28787 136.83403,35.287926 136.83435,35.287937

136.83466,35.287968 136.83484,35.287987 136.8358,35.288116
136.83649,35.288136 136.83734,35.288147 136.83798,35.28815
136.83803,35.28815 136.83803,35.287983 136.83803,35.28774
</Coordinates>
</LinearRing>
</OuterBoundary>
</Polygon>
```

b 評価区間（上下別）情報

評価区間属性情報を、<Property>部に出力します。

出力内容は次表（「表 3－6 評価区間属性情報の詳細」）に定義してある項目のみとします。

[Property フォーマット]

```
<Property propertytypename="Nendo">評価年度</Property>
<Property propertytypename="Prefcd">都道府県コード</Property>
<Property propertytypename="Citycd">市区町村コード</Property>
<Property propertytypename="Hyokacd">評価区間番号</Property>
<Property propertytypename="Jyogecd">上下区分コード</Property>
<Property propertytypename="HasseiCd">騒音発生強度の把握の方法</Property>
<Property propertytypename="SokuteiNen">測定年度</Property>
```

次表に、各出力項目の詳細をまとめます。

表 3－6 評価区間属性情報の詳細

通番	項目	列名(*3)	型(*3)	文字数(*3)	内容
1	評価年度	Nendo	整数(*4)	4	自動車騒音常時監視の評価のあった年度を西暦で表す数字
2	都道府県コード	PrefCd	整数(*4)	2	「統計に用いる標準地域コード（総務省発行）」（ http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/9-5.htm ）に準じるコード。
3	市区町村コード	CityCd	整数(*4)	3	「統計に用いる標準地域コード（総務省発行）」（ http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/index/seido/9-5.htm ）に準じるコードで、都道府県コードに該当する上 2 桁を除いたもの。
4	評価区間番号	HyokaCd	文字列(*5)	15	各地方公共団体別に、評価区間を一意に表す評価区間番号。ハイフン（－）等の記号等を併用している場合があるので文字列で表すが、数字は全角を用いないこと。
5	上下区分コード	JyogeCd	整数(*4)	1	評価区間の上下を表す数字 0：上、1：下、9：区分なし
6	騒音発生強度の把握の方法	HasseiCd	整数(*4)	1	騒音発生強度の把握の方法を表すコード 1：沿道騒音レベルの実測による方法 2：他の評価区間における騒音測定結果を準用する方法 3：自動車の交通量及び速度の実測結果により推計する方法 4：交通量が僅少の事由により、環境基準値以下と決定する方法
7	測定年度	SokuteiNen	整数(*4)	4	騒音測定の年度を西暦で表す数字

(*3) *.dbf ファイル内のヘッダー部（1行目）に列名を定義し、2行目以降に指定した型・文字数でデータを出力する。

(*4) Integer で宣言する。

(*5) Char で宣言する。

(4) サンプル

県コード (99)、市区町村コード (888) の 2003 年度報告の場合
(騒音測定地点)

・ **souon200399888.xml** ファイル内容

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<G-XML>
  <MetricGeospace>
    <Boundary>
      <Rectangle>
        <Coordinates>136.78119,35.277946 136.82227,35.322536</Coordinates>
      </Rectangle>
    </Boundary>
    <GeometricFeature id="1" category="d:/work/gxml/souon200223203">
      <Geometry>
        <Point>
          <Coordinates>136.80284,35.287483</Coordinates>
        </Point>
      </Geometry>
      <Property propertytypename="Nendo ">2003</Property>
      <Property propertytypename="Prefcd">99</Property>
      <Property propertytypename="Citycd">888</Property>
      <Property propertytypename="Sokuteicd">10</Property>
    </GeometricFeature>
    <GeometricFeature id="2" category=" ">
      <Geometry>
        <Point>
          <Coordinates>136.80177,35.279026</Coordinates>
        </Point>
      </Geometry>
      <Property propertytypename="Nendo[・LU]">2003</Property>
      <Property propertytypename="PrefcdAU">99</Property>
      <Property propertytypename="Citycd">888</Property>
      <Property propertytypename="Sokuteicd">1</Property>
    </GeometricFeature>
    <GeometricFeature id="3" category=" ">
      <Geometry>
        <Point>
          <Coordinates>136.81204,35.318996</Coordinates>
        </Point>
      </Geometry>
      <Property propertytypename="Nendo ">2003</Property>
      <Property propertytypename="Prefcd">99</Property>
      <Property propertytypename="Citycd">888</Property>
      <Property propertytypename="Sokuteicd">2</Property>
    </GeometricFeature>
  </MetricGeospace>
</G-XML>
```

(評価区間)

・ hyoka99888.xml ファイル内容

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" ?>
<G-XML>
  <MetricGeospace>
    <Boundary>
      <Rectangle>
        <Coordinates>136.7509,35.25154 136.86722,35.369778
      </Coordinates>
    </Rectangle>
  </Boundary>
  <GeometricFeature id="1" category=" ">
    <Geometry>
      <Polygon>
        <RenderingRule>
          <LineStyle color="#000000" width="1.0"
            linepattern="SOLID" />
          <FaceStyle foregroundcolor="#FFFFCC"
            backgroundcolor="#000000"
            facepattern="HS_SOLID" />
        </RenderingRule>
        <OuterBoundary>
          <LinearRing>
            <Coordinates>136.79439,35.28718
              136.79457,35.287178      136.79526,35.287193
              136.79562,35.287205      136.79575,35.287216
              136.82317,35.28663        136.82297,35.286633
              136.82173,35.286655        136.8208,35.286686
              136.82062,35.286686        136.82002,35.286694
              136.81952,35.286705        136.81938,35.286705
              136.81808,35.286736        136.81615,35.286777
              136.81586,35.28678        136.81473,35.28678
              136.81407,35.28678        136.8133,35.286774
              136.81233,35.28678        136.81216,35.28678
              136.8115,35.28677        136.81113,35.286762
              136.81036,35.286774        136.81024,35.28678
              136.80888,35.28677        136.80795,35.286762
              136.80737,35.28676        136.80692,35.28678
              136.80673,35.286785        136.80638,35.28679
              136.80598,35.286785        136.80579,35.2868
              136.80501,35.286804        136.80435,35.286808
              136.80327,35.28681        136.8022,35.28682
              136.80147,35.286823        136.80038,35.286823
              136.79953,35.286827        136.79941,35.28683
              136.79845,35.286835        136.79816,35.286835
              136.79718,35.286785        136.79688,35.286777
              136.7964,35.286777        136.7958,35.286766
              136.79568,35.286755        136.79527,35.286743
              136.79459,35.286728        136.7944,35.28673
            </Coordinates>
          </LinearRing>
        </OuterBoundary>
      </Polygon>
    </Geometry>
    <Property propertytypename="Nendo">2003</Property>
    <Property propertytypename="Prefcd">99</Property>
    <Property propertytypename="Citycd">888</Property>
    <Property propertytypename="Hyokacd">203001-1</Property>
    <Property propertytypename="Jyogecd">0</Property>
    <Property propertytypename="HasseiCd">1</Property>
    <Property propertytypename="SokuteiNen">2003</Property>
  </GeometricFeature>
  <GeometricFeature id="2" category=" ">

```

```

<Geometry>
  <Polygon>
    <RenderingRule>
      <LineStyle color="#000000" width="1.0"
        linepattern="SOLID" />
      <FaceStyle foregroundcolor="#FFFFCC"
        backgroundcolor="#000000"
        facepattern="HS_SOLID" />
    </RenderingRule>
  <OuterBoundary>
    <LinearRing>
      <Coordinates>136.83803,35.28774
        136.838,35.2877      136.83734,35.287697
        136.8365,35.287685    136.83586,35.287666
        136.83495,35.287544    136.83475,35.28752
        136.83441,35.287487    136.83408,35.287476
        136.83253,35.28742     136.83214,35.2874
        136.8314,35.287376     136.83134,35.287388
        136.83038,35.287334     136.83025,35.287365
        136.82979,35.287346     136.82895,35.287308
        136.8287,35.28726       136.82845,35.287254
        136.82805,35.287247     136.82735,35.287247
        136.82715,35.28726      136.82625,35.287273
        136.82608,35.287277     136.8251,35.2873
        136.82492,35.287304     136.82446,35.28731
        136.82419,35.28732      136.82362,35.287327
        136.82317,35.287334     136.82295,35.287342
        136.82198,35.28736      136.82173,35.287365
        136.82072,35.287384     136.82053,35.287384
        136.81953,35.28741       136.81883,35.287422
        136.82863,35.28771       136.82886,35.287754
        136.82976,35.287796     136.83034,35.287823
        136.83046,35.287792     136.8314,35.28784
        136.83147,35.28783       136.8321,35.287846
        136.8325,35.28787        136.83403,35.287926
        136.83435,35.287937     136.83466,35.287968
        136.83484,35.287987     136.8358,35.288116
        136.83649,35.288136     136.83734,35.288147
        136.83798,35.28815       136.83803,35.28815
        136.83803,35.287983
        136.83803,35.28774</Coordinates>
      </LinearRing>
    </OuterBoundary>
  </Polygon>
</Geometry>
<Property propertytypename="Nendo">2003</Property>
<Property propertytypename="Prefcd">99</Property>
<Property propertytypename="Citycd">888</Property>
<Property propertytypename="Hyokacd">203001-1</Property>
<Property propertytypename="Jyogecd">1</Property>
<Property propertytypename="HasseiCd">1</Property>
<Property propertytypename="SokuteiNen">2002</Property>
</GeometricFeature>
</MetricGeospace>
</G-XML>

```


参考資料 1

評価区間 Polygon (REGION) の出力形式

評価区間情報を出力する際、評価区間 Polygon (MapInfo Interchange Format、および ArcView Shape いずれの場合も) の出力形式に応じて、ファイル名の先頭に出力コードを付加してください。

以下に、評価区間出力形式ごとの出力コードをまとめます。

表 1 評価区間出力形式と出力コード一覧

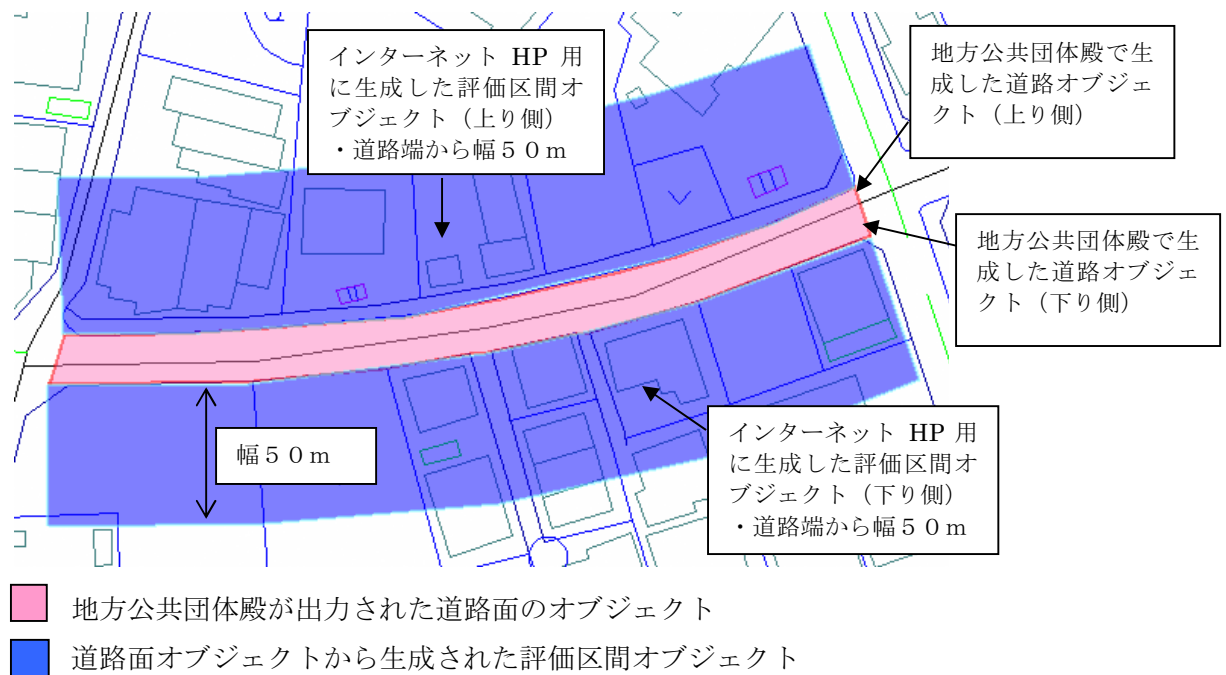
出力コード (*1)	評価区間出力形式	備考
なし	道路に面する地域で道路端から 50 m の範囲を出力	このタイプでの出力を基本とします。 (面的評価支援システムでの出力形式) ここで出力された形状でインターネットの HP に表示されます。 評価区間属性情報の上下区分コードは上下毎に正しくセット。 ファイル名例) hyokaPPQQQQ.shp
A	道路面オブジェクトを上下で分割して出力	道路面の道路端から 50 m 範囲の評価区間を生成しインターネットの HP に表示します。 実際の評価範囲とはずれて表示される可能性があります。 評価区間属性情報の上下区分コードは上下毎に正しくセット。 ファイル名例) AhyokaPPQQQ.shp
B	道路面オブジェクトを上下で分割せず 1 つのオブジェクトとして出力	道路面の道路端から 50 m 範囲の評価区間を生成しインターネットの HP に表示します。 実際の評価範囲とはずれて表示される可能性があります。 評価区間属性情報の上下区分コードは“区分なし”(9) をセット。 ファイル名例) BhyokaPPQQQ.shp
C	評価区間線形 (LINE) オブジェクトとして出力	評価区間線形 (Line 属性) を中心に左右 50 m に評価区間を生成しインターネットの HP に表示します。 実際の評価範囲とはずれて表示されます。 評価区間属性情報の上下区分コードは“区分なし”(9) をセット。 ファイル名例) ChyokaPPQQQ.shp
Z	上記以外	どのような形式で出力されているか明記してください。 ファイル名例) ZhyokaPPQQQ.shp

(*1) 出力コードはすべて大文字として下さい。

以下に、道路に面する地域で道路端から 50 m の範囲を出力以外 (A～Z) の出力形式についての詳細をまとめます。

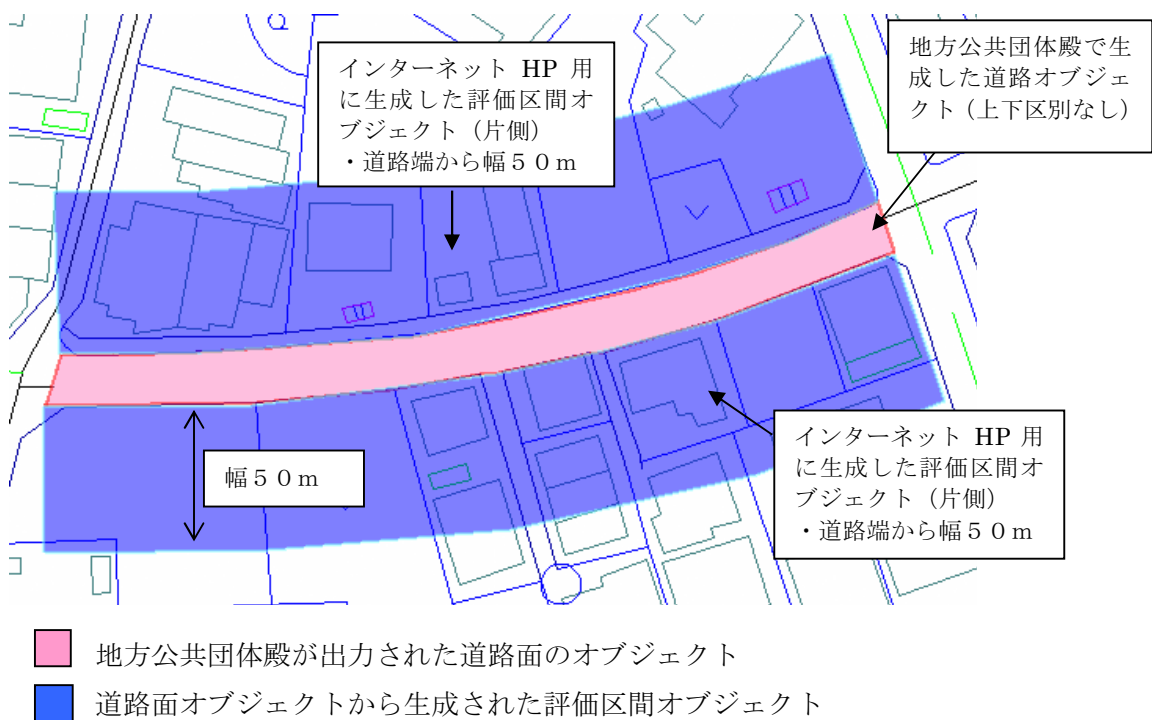
(1) 道路面オブジェクトを上下で分割して出力

(出力コード：A)



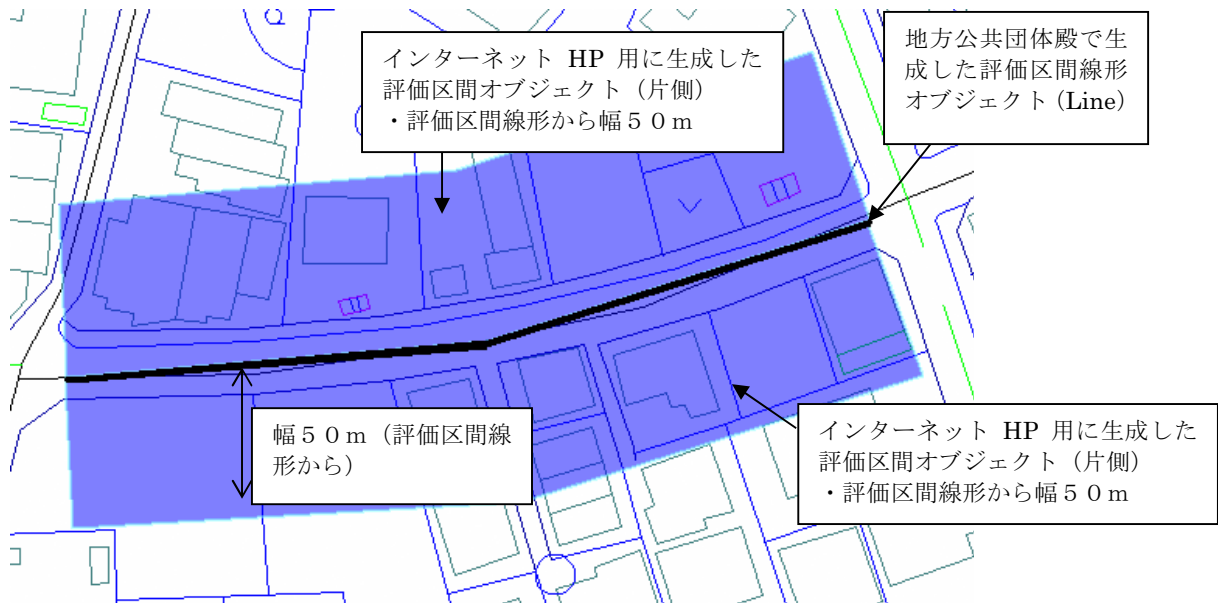
このパターンで提出の場合には、道路と評価区間（上下）の関係が分かる地図を同時に添付して下さい。

(2) 道路面オブジェクトを上下で分割せず 1つのオブジェクトとして出力（出力コード：B）



このパターンで提出の場合には、道路と評価区間（上下）の関係が分かる地図を同時に添付して下さい。

(3) 評価区間線形 (LINE) オブジェクトとして出力
(出力コード : C)



道路線形オブジェクトから生成された評価区間オブジェクト

このパターンで提出の場合には、評価区間線形と評価区間（上下）の関係が分かる地図を同時に添付して下さい。

また、評価区間線形オブジェクトを出力するには図形情報は連続線属性で出力して下さい。

a MapInfo Interchange Format(MID/MIF 形式)フォーマットで出力する場合

図形情報ファイル (*.mif) に出力する場合は、以下の PLINE フォーマットで出力して下さい。

[PLINE フォーマット]

Pline 座標点数

経度△緯度	}	座標点数の数だけ座標を出力
緯度△経度		
:		
緯度△経度		

△△△△Pen (線幅,線パターン,線色)

△ : 半角スペース

次表に各項目の説明をまとめます。

表2 PLINE フォーマットの各項目説明

項目	内容	備考
座標点数	連続線の座標点数を指定します。	
経度	連続線の緯度座標を指定します。	十進緯経度で指定して下さい。 座標点数分出力します。
緯度	連続線の経度座標を指定します。	
線幅	連続線の線幅を指定します。	3として下さい。
線パターン	連続線の線色を指定します。	実線(2)として下さい。
線色	連続線の色を指定します。	赤(16711680)として下さい。

[出力例]

```
Pline 3
139.986703 43.874344
140.082958 43.932364
140.484719 43.636152
Pen (3,2,16711680)
```

b ArcView Shape フォーマットで出力する場合

メインファイル (*.shp) ファイルに出力する際は、評価区間線形の座標を PolyLine で出力して下さい。

c G-XML 2.0 フォーマットで出力する場合

*.xml ファイルに出力する際は、評価区間線形の座標を LineString で出力して下さい。

(1) 上記以外（出力コード：Z）

上記以外のパターンのとき指定して下さい。

この場合は、必ず評価区間の生成方法の詳細を明記のうえ、評価区間（上下）の関係が分かる地図を添付して下さい。

参考

面的評価支援システム 操作マニュアル（本編）抜粋